

Martin Oestreich 教授 講演会報告

～ホウ素とケイ素を活かした触媒反応～



目で見ると
海外講師講演会

西本能弘*

Lecture of Prof. Martin Oestreich
- Catalysis with Silicon and Boron -

Key Words : Silicon, Boron, Organic Synthesis, Main-group Metal

<開催時期>平成 28 年 11 月 16 日

<開催場所>大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 C1-211 教室

<講師>ベルリン工科大学 Martin Oestreich 教授

平成 28 年 11 月 16 日に大阪大学吹田キャンパス C1-211 教室において、ベルリン工科大学から招聘した Oestreich 教授の講演会を開催した。Oestreich 教授はケイ素およびホウ素を中心とした典型金属化学の若きトップランナーであるために、講演会会場は多くの教員と学生とで溢れていた。

有機化学は石油・石炭・天然ガスの炭素資源から合成樹脂や医薬品、農薬、有機電子材料など多岐に渡る化成品を創り出す分野であり、現代社会において重要な役割を担っている。特に、金属は触媒として重要な地位を占めている。遷移金属は、多くの有機合成反応に対して触媒効果を示し、多機能で高活性な触媒が開発されている。しかし、近年では遷移金属の資源の枯渇が危惧されており、資源豊富な典型金属が注目されている。本講演会で、Oestreich 教授は典型金属であるホウ素とケイ素を軸とした触媒および反応試剤の自身の最新の研究を発表された。フェロセン部位で安定化したシリリウムカチオン種の合成から始まり、ピリジンやアニリンの最新の C-H シリル化に至るまでの同教授の一連の研究の

流れをわかりやすく講演された。同教授の研究に対する真摯な姿勢と鋭い観察力・洞察力がこれほどまでに研究を展開させたのだと著者は強く感じた。発表終了後には、多くの聴衆からの質問が相次いであり、活発な議論が展開された。本講演会は多くの教員と学生にとって良い刺激となり、海外研究者との非常に有意義な交流会であった。

最後になりましたが、本講演会は生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業からのご支援を頂きました。関係各位に厚く御礼申し上げます。



自身の研究について
発表する
Oestreich 教授



聴衆からの質問に
丁寧に答える
Oestreich 教授



Martin Oestreich

1971年10月生
Technical University of Berlin
Department of Chemistry
Professor PhD.
有機化学、有機金属化学
E-mail : martin.oestreich@tu-berlin.de



熱い議論が交わされた
黑板の前での
Oestreich 教授と
著者との一枚

*講演会主催者 大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター
グローバル若手研究者フロンティア研究拠点 助教